



山行報告

「学びあい」と書いてある登山及びハイキングは、文部科学省委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業です。

石老山(12月7日)「学びあい」

参加者 会員(障害者7名、健常者15名)
会員外(健常者12名)

ころがあった。融合平見晴台からは、相模湖と陣馬山がよく見えた。その奥には生藤山も見えていたようだ。

すばらしい天気恵まれ、京王線の車窓から真っ白な富士山がよく見えた。

相模湖駅で下車して、バス停に向かう。今日は34人の参加となり、全員揃ってから移動していると遅れてしまう懸念があるため、改札前で人数を確認している時間もなく、バス停に着いてから人数を確認する。少し人数が足りないと思ったが、少し遅れてバス停に来て、連絡が付かなかった人を除いて全員集合した。

石老山入口でバスを降り、車道をしばらく歩く。相模湖病院の脇から林道のような幅広い山道に入る。普通の登山道となり、少し行くと滝不動といわれる大きな岩が現れる。岩の間に地藏さんが祭られているようだ。

そこから少し登ると、顕鏡寺に到着する。イチヨウの葉を集めて燃やしているようだった。ここからは、やや急な道となり、大きな奇岩が次々に現れる。時折、素晴らしい紅葉が見られるところや、都心のビルが見える見晴の良いと



石老山山頂にて

尾根上を歩くようになり、あそこが山頂かなと思って行ってみると、まだその向こうに少し高いところがあるということは何度か繰り返し、ようやく山頂に到着した。山頂の南側は、樹木を切ったようで、富士山がよく見えた。5合目くらいまで真っ白だった。富士山の左手には大室山が聳え、その左奥には、蛭ヶ岳も見えていた。



石老山山頂から見た富士山

富士山を見ながら、日だまりの中で昼食にする。昼食後、集合写真を撮って下山にかかる。登る時と班の順番を変えて欲しいという要望が学生さんたちからでて、まずは3班、2班、1班の順番で歩くことにする。

平らな山頂をしばらく行き、篠原への分岐を分けて、右手に下っていく。しばらくは歩きやすい道が続く。左手の木々の間から富士山が見える。さらに、遠く白い山々が見えたが、あれは南アルプスの塩見岳、荒川三山、赤石岳だった。

子どもたちは、元気に先頭を歩いている。下りなのに何度か登りもあり、最後の登りにかかると、その上が大明神展望台だった。登ってきた石老山がよく見え、相模湖やその周辺の山もよく見えていた。奥多摩の大岳山も見えている。

ここから道は、岩混じりの険しい道に変わっていく。みんなサポートに苦労しながら下って

くるが、子どもたちは元気いっぱいだ。何度も「待っているよ～」と声をかける。しかし、道に迷って登山道を外すこともなく、しっかりと下りている。どこでも歩けそうなどころもあったのだが、全然迷わない。子どもたちの成長に感心した。

ようやく林道に出て、安心して下る。さらに車道に出て、ピクニックランド前のバス停から、予定より1時間ほど遅れたバスに乗り込んだ。

高尾から京王線に乗り換え、車窓を見ていると、今朝見た富士山が今度は、オレンジ色の空の下にシルエットとなって浮かんでいた。

コースタイム

石老山入口(9:40)... 顕鏡寺(10:15-10:25)... 石老山(11:50-12:40)... 大明神展望台(13:35-13:45)... ピクニックランド前(15:15)

和名倉山(12月13日～14日)リーダー養成コース

参加者 会員(健康者4名)

12月13日

千葉を出る時は、曇り空だったが、山梨はまずまずの天気だった。塩山駅からタクシーで三ノ瀬まで入る。ここから、林道のような広い道を緩やかに登っていく。

沢を渡り、斜面をトラバースして、尾根に出る。ここからは尾根通しになる。すぐに、将鑑小屋(しょうげんごや)への分岐を分ける。こちらは緩やかな傾斜の七ツ石尾根を登る。上空には青空が広がり、すばらしい天気だ。葉を落としたカラマツの向こうに飛龍山が見えてくる。

Tさんが少し遅れぎみだ。今回は、私も20キロを少し超えるザックの重さだったが、みんな水を3リットル以上持ち、15キロを超える重さのため足取りが重い。

牛王院平に到着し、奥秩父の主脈縦走路に合流する。この付近から、雪が現れてきた。北側の斜面には、かなり雪が残っている。滑らないように気をつけて山の神土(かんど)まで歩く。ここから、いよいよ主脈を外れて、和名倉山への稜線だ。



まずは、尾根のトラバースが始まる。雪も増えてきたので、途中から軽アイゼンを付ける。小さな沢を渡り、さらに行くと、尾根上に出る。そこは、展望がすばらしく、気持ちの良い笹原

だった。三ツ山の左側には、雲取山が見えていた。一つピークを巻き、さらにリンノ峰を巻く。このあたりから、Nさんが遅れ気味になってきた。どうも足が攣ららしい。暗くなる前にテントを張ろうと、少し弱気になっている。

ザックの重さが応えているようなので、テントを張れるところを探しながら歩く。西仙波の手前に張れるところがあったので、そこをテント場とする。テントを張ったあと、ここまで来たので、せめて東仙波から和名倉山を見てみたいと思い、空身で往復することにする。

西仙波は、山頂を通らず、巻いて過ぎてしまった。東仙波の手前の岩峰に来ると、すばらしい展望が広がった。西側には雲海が広がり、遠く雲の切れ間から甲武信ヶ岳らしい高い山が見えた。振り返ると雲取り方面も雲が広がっている。今日行く予定だった和名倉山は、残照を浴びて赤く色づいている。東仙波からの尾根もよく見える。今日は、この周辺だけが天気に恵まれているようだ。

東仙波を私とTさんとで往復し、テント場に戻る。テント場では、Hさん提案の水炊きを作って腹ごしらえをする。美味しい鍋をみんなでつついて、満腹になって、シュラフに潜り込んだ。

12月14日

夜は、近くで何度も鹿の鳴き声がした。テントの中は、それほど寒くなく、ぐっすりと寝ることができた。ただ、夜半からテントをポツポツと叩く音がしているのが気になった。

朝起きて外に出ると、なんと完全な雪景色に変わっている。5センチ強、積もっただろうか。

昨夜の水炊きにごはんと残りの野菜を入れて朝食とする。テントを撤収し、歩き始めたのは、すでに9時だった。昨日来た道を引き返す。雪に覆われた風景は、昨日とは全く違うところ

にいるようだ。



朝起きるとテントの外は真っ白だった

山の神土周辺のカラマツは、雪の花が咲いたようで昨日とは全く違う風景を見せている。牛王院平からの下りは、雪で滑りやすかった。シラビソに載った雪は、一足早いクリスマスツリーのような。みんな、美しいと歓声を上げながら下っていく。

途中で、携帯電話が通じると言うことなので、昨日のタクシーの運転手さんに電話して、迎えに来てもらうことにする。この冬最初の雪景色を堪能しながら、三ノ瀬の集落に12時過ぎにつき、温かい飲み物を飲んで、タクシーを待った。

タクシーはスタッドレスだからよいが、ノーマルタイヤの車は、レッカーを呼んでいるものもあった。柳沢峠は、三ノ瀬よりも雪が深いようだった。タクシーに、そのまま塩山温泉まで送ってもらった。

今回の登山は、誰とも会わない静かな山行でした。

コースタイム

12/13 三ノ瀬(10:15)...山の神土(13:25-13:30)
...西仙波手前のコル(15:10-15:30)...東仙波(16:00)...西仙波手前のコル(16:20)
12/14 テント場(9:00)...山の神土(10:00-10:20)...三ノ瀬(12:05着)

弘法山(12月21日)「学びあい」

参加者 会員(障害者7名、健常者22名)

会員外(健常者5名)

今日は、忘年山行だ。幸い天気恵まれ、12月とは思えない暖かさだ。

バスを降りて東京カントリー倶楽部のゴルフ場に向かう。西側を見ると、富士山が時折山頂を雲の中にかくしながらも、真っ白な姿で佇んでいる。南側には相模湾が光って見えていた。ゴルフ場に着くと、目の前にこれから目指す高取山がよく見えた。

ゴルフ場の中を通り、登山道を探す。イノシシ除けの網の戸を開けて登山道に入って行く。左上に細い道があり、道標があったが読めないため、幅の広い道を進んでみるが、どうもこの先は下っているようなので、引き返して細い道を登る。ところがこの道も、山腹をトラバースする道のように、どんどん大山方面に進んでいる。



高取山山頂でお汁粉を作る

高取山山頂に直登している登山道を探すため、少し引き返してみると、猪除けの網に扉を見つけた。その扉の向こうに、高取山への道標があった。これで登山道がはっきりしたが、この道標は網の手前に付けて欲しかった。

しかし、ここからは順調に登る。ただ、意外

に急登だった。傾斜が緩んでも山頂はもう少し先だった。山頂には3パーティーほどが休憩していた。空いているところで、早速お汁粉づくりをはじめた。餅を煮る人、あんを温める人などに別れ、戦場のような忙しさで、バタバタと作る。餅は一人一切れずつだが最後は汁があまり、みんなで頑張っ空にすることができた。



高取山山頂にて

高取山からの下りは、木の根が多く、また滑りやすいところもあって、意外に厳しかった。それでも454mのピークを巻き、見晴の良い念仏山に到着。ほぼ予定時間で歩いている。

ここから送電線の下を通り、善波峠から緩やかに登って大きな鐘のある弘法山に到着。ここで忘年会でお渡しする最多参加賞を除き、10回以上参加の精勤賞とそれ以外の方にもプレゼントをお渡しする。

弘法山で時間をかなり使ってしまったため、車道に下りるまでに暗くならないか、少し心配になってきた。権現山は、山頂直下を巻く道があったので、そちらを使う。歩きやすい道であるが、太陽は沈んでしまったようだ。

街の灯りを見ながら最後の下りを頑張る。最後尾はヘッドランプを付けはじめたようだ。ようやく車道に出て、秦野駅を目指す。今回は、34人の参加となったため、さすがに信号なども1回で渡れず時間がかかったが、全員秦野駅に集合して、解散とした。今年1年、事故もなく無事に終えることができ、ホッとしています。これもみなさまのご協力のおかげです。ありがとうございました。

解散後、恒例の忘年会を駅の近くの居酒屋で行った。いつもどおりの盛り上がりで、和気藹々のうちに店を出て、帰途についた。

蝶ヶ岳(12月27日~29日)

参加者 会員(障害者1名、健常者2名)

12月27日

直前に冬型が強まり、相当の積雪があるのではないかと心配だった。また、当日も南アルプス北部の山や八ヶ岳に雲がかかっていたため、北アルプス北部も天気は良くないだろうと思って松本に着いた。

Yさんとバスから合流し、中ノ湯に向かう。バスの中から、常念岳が見えて、もしかしたらという期待が膨らむ。

中ノ湯でバスを降り、登山計画書を提出して釜トンネルに入った。このトンネルは、長さ1,310m、傾斜11度だ。登りはなかなかきつい。

トンネルを抜けるが、積雪はほんのわずか。同じ北アルプスでも、北部の剣立山や後立山と違って、南部の積雪は非常に少なく、乾燥しているため軽い雪だ。歩くとキュッキュッと音がする。



大正池に着くと、テレビカメラを持った人たちがいる。動きがあわただしく、私たちを撮影するようだ。局を聞くと、信州(信越かも?)

コースタイム

東中学校前(11:05)...高取山(12:25-13:30)...弘法山(15:35-16:05)...秦野駅(17:20)

放送だった。インタビューまでされてしまった。残念ながら関東では放送されないらしい。

大正池を過ぎ、しっかりと除雪された車道を歩き、河童橋に到着。奥穂は残念ながら雲に隠れていたが、他は全て見え、青空の下、すばらしい風景を楽しむ。

上高地からは、除雪された道ではなく、トレースに行く。明神を過ぎ、徳沢には予定より少し早い16時45分に到着した。

徳沢園は、今は素泊まりだけ。しかし、小屋ではお湯は自由に使わせてもらえる。ストーブもあってとても温かい。外の温度計を見るとマイナス10だった。

食事の準備をしていると、他の宿泊客も食事中だった。新潟弁の方がいたので聞いてみたら、何と、私の母校の山岳部の顧問の先生だった。私が在学中は先生を知らなかったが、私の担任の先生は、よくご存じだった。中越沖地震では、学校も被害を受けたらしい。ローカルな話に花が咲いてしまった。

12月28日

5時に起床し、朝食の準備をしていると、外は雪が降っているとのこと。予報が当たったのかと残念だったが、準備をして予定より少し遅れて出発する。朝の気温はマイナス7。昨晚より温かい。積雪は3センチ程度なので、トレースは消えていないと思った。

私たちよりも数パーティーが先に出発した。その多くは、行けるところまで行って引き返すパーティーだった。

アイゼンを利かせて順調に高度を稼ぐ。Mさんには、私とロープを結び合って、ダブルスト

ックで歩いてもらう。順調に歩いているように思えたが、2,000mを過ぎたあたりからペースが落ちてきた。疲れたのかなと思ったが、どうも慣れないダブルストックでは、段差や方向に自信が持てず、一步一步が不安だったために、時間がかかったようだ。Yさんのザックに付けたひもを掴んで歩いたら、ぐんぐん高度を上げることができた。ダブルストックは、アイゼンを付けての安全な歩行をと私が考えたが失敗だった。

午後からは降っていた雪は止み、時折日が差すようになってきた。しかし、時間はかなりすぎている。午後2時くらいには、行けるところまで行って引き返す人たちが全員下ってきた。先頭は、ラッセルしながら登っていたとのこと。

時折青空が見えるようになったものの、地吹雪も襲ってくる。標高が上がり、相当風が強くなってきた。また、何度も雪に足がすっぽり埋まってしまう。一度は、Mさんが胸くらいまで潜ってしまった。木の枝の脇で、雪の下が空洞になっていたようだ。

なかなか長堀山に着かないと思っていたら、急な下りが現れた。おかしいと思ったら、やはり山頂を通り過ぎてしまった。山頂は、雪で埋まって、標識などは全く見えなかった。

山頂を通り過ぎると、トレースは地吹雪のために消えてしまっていた。それでも、Yさんが先頭で、ルートを見つけ、先行して登って、張られたテントを見つけた。私たちも、そのテントの近くにテントを張ることにする。この場所は、風がなく、絶好の場所だった。

今日中にテントを張ってから山頂を往復したいと思っていたが、それは無理なので、今日はそのままテントに泊まることにする。空は満天の星空だった。ひときわ明るく輝いていたのは金星だろうか？ 食事の後は、シュラフにくるまって、早々に横になった。

12月29日

夜はあまり寒くなかった。4時に起床し、外を見ると、まだ満天の星空だった。時間的にこれから山頂を目指すことは不可能なので、朝食後、パッキングも終わらせて、展望の良いところを探して、空身で少し登ってみることにする。樹林が少し切れたところから、大天井岳方面の見えるところがあった。少し移動すると、槍ヶ岳も見えた。これは良かったと思い、写真だけ撮ってテント場に戻る。

テント場から下のトレースも地吹雪でほとんど消えていた。私が先頭でラッセルし、YさんにMさんをサポートしてきてもらう。長堀山の山頂に立つと、木々の間から槍ヶ岳や穂高連峰が見えた。さらに南アルプスや富士山も見えた。夏には全く展望のないピークだが、1.5mくらいの積雪があるため、なんとか展望が得られる。



記念写真を撮影して下山する。ここからの下りでも、何度か展望の良いところがあり、乗鞍岳や御岳がよく見えるところもあった。前穂高岳や奥穂は、やはり迫力がある。Yさんから、来た甲斐があったなという言葉が漏れる。最高の天気にも恵まれて、真っ白な山々を見られたことは本当にうれしい。ただ、もう一日あれば、山頂に立つことができたのに悔やまれる。いつかリベンジしたいものだ。

順調に下ってきたが、中ノ湯15時15分のバスを逃すと帰れなくなると思い、がんがん飛ばして下る。全盲のMさんは、滑りながらもしっかりとついてくる。下りは腰の引ける人が多

いのだが、思い切りの良さに感心する。

何とか予定どおりの11時に徳沢に到着した。徳沢園のお兄さんに挨拶したら、お茶をどうぞと勧められた。小屋の中に入って、ありがたくいただく。徳沢園は、今日から食事付きで営業するそうだ。



お茶をいただいた後、上高地まで急がなければと思っていたら、スノーモービルで上高地まで送ってくださるとのこと。ただ、乗れるのは二人だけということで、三人で相談したら、Mさんは歩いて帰りたいとのこと。それで、私が三つの荷物と一緒にスノーモービルで送っていただくことにした。

スノーモービルに乗るのは初めてだったが、すごいスピードで走るの、しっかり掴まっていなければならなかった。梓川の河原を飛ばし、途中から右岸の林道を飛ばす。徳沢から上高地まで、25分くらいで着いてしまった。二人のザックも、河童橋まで運んでくださるといふ。とても親切な方だった。

小屋の方にお礼を言い、分かれてからしばらくすると、私の母校の先生が河童橋に到着した。お昼の時間だったため、ベンチに座って、一緒

に食べる。先生は、今日は中ノ湯に泊まって、明日帰るそうだ。昼食後、中ノ湯に向かって一足先に帰っていった。

快晴だった空は、次第に雲が広がり、穂高連峰の上空には薄い雲が広がっていた。

YさんとMさんは、空身だったこともあり、徳沢から1時間半で河童橋に到着した。二人がお昼を食べている間、私はカワガラスや上高地の風景をカメラに収めさせてもらう。カワガラスはこんな冬も、ここに留まっている。餌などはあるのだろうか？

上高地から車道を歩いて、中ノ湯に向かう。最後の釜トンネルは、下りなので、早い早い。あっという間に中ノ湯に着いてしまった。中ノ湯で着替えやパッキングを済ませ、松本行きのバスに乗り込んだ。

松本駅で神戸に帰るYさんと別れ、駅弁などを購入し、スーパーあずさで乗り込む。これで今年、終わったようなもの。無事に正月を迎えられることを感謝して、ビールでMさんと乾杯する。松本の空は、どこまでも澄んでいた。

コースタイム

12/27 中ノ湯(12:40)...大正池(13:30-13:50)...
河童橋(14:30-14:55)...明神(15:45-15:50)
...徳沢(16:45)

12/28 徳沢(7:20)...標高 2,000m地点(9:50)...
長堀山(14:35)...テント場(15:10)

12/29 テント場(7:30)...長堀山(7:45-7:55)...標
高 2,000 地点 (10:10-10:15) ... 徳 沢
(11:00-11:20)...河童橋(12:55-13:15)...中
ノ湯(14:50)

鋸山(1月10日)

参加者 会員(障害者4名、健常者18名)

会員外(健常者2名)

昨夜の雨も上がり、空はスッキリと晴れ渡っている。ただ、時折黒い雲が流れてきて、パラ

ッと雨が降った時もあった。

浜金谷の駅は、Suicaなどのカードが使えず、精算に手間取ってしまった。トイレも少なく、できるだけ電車の中で済ませるべきだった。

駅からは案内標識に従って、鋸山を目指す。線路を渡って少し行くと、急な階段の始まりだった。お正月でなまった身体には、少しきつかったようだ。途中、少し休みを入れ、登り着いたところが観月台だ。ここは、素晴らしい展望だ。東京湾の向こうに、富士山も見えている。雲がまとわりついてはっきりとは見えないが、右側にある丹沢山塊や左側の箱根の山々も見えている。

観月台からさらに登り、石切場跡に行く。垂直の岩壁がそそり立ち、なかなか迫力がある。ここから、地獄のぞきに行かれると思ったのだが、ここは行き止まりだった。それで、途中にあった分岐に戻り、地獄のぞきに向かう。百尺観音の手前で一人当たり拝観料600円を支払う。これは高すぎるという不満がでる。

百尺観音から左に続く階段を登っていくと、地獄のぞきに到着する。風があり寒いですが、ここで昼食タイムにする。昼食後、地獄のぞきに行って、展望とスリルを楽しむ。



地獄のぞきから三角点に行かれると思ったのだが、どうも道がないようなので、もう一度、石切場への分岐に戻る。急な階段が続き、足幅の狭いところなど慎重に下る。石切場への分岐に着き、石切場方面にもう一度戻る。そして、

東京湾を望む展望台に立ち寄り、素晴らしい展望を楽しむ。房総半島の南部、そして太陽の光を受けて光る海、その右には大島、伊豆の天城山、箱根、富士山、丹沢と続いている。足下には浜金谷の港が見え、浦賀水道の向こうには三浦半島が見え、横須賀火力発電所の煙突が大きく見える。さらに、東京湾の奥には、都心が遠くに見えている。

素晴らしい展望を後にして、予約したばんやさんに遅れないよう、時間を気にしつつ、先を急ぐ。尾根道を何度かアップダウンを繰り返して、千葉テレビ送信所のアンテナを過ぎ、ようやく一等三角点のある鋸山山頂に到着した。ここは、北側が開けていたが、展望はあまりよいとは言えず、みんなで集合写真を撮って、先を急ぐ。



山頂からも尾根通しに歩く。時々尾根が狭まったところがあるが、手摺りなどもあり、しっかりと整備されている。こちらに来ると、登山者にはほとんど会うことなく、静かな山歩きが楽しめる。元気いっぱいの我々のパーティーは、いつもどおりのにぎやかさだが。

障害を持つI君は、弱視のTさんに、木の根や滑りやすいところを教えてあげている。今年は、いよいよ就職。頑張っただけで欲しいと思う。

林道に、予定よりも少し早く到着。これで時間の心配はなくなり、ホッと一安心。林道から車道を、スイセンの花を見ながら軽やかに歩く。保田駅からは、送迎バスに乗って、Kさんお勧めのばんやさんに向かう。夕日と富士山を見ながら、新鮮な魚を使ったお寿司などを堪能し、

帰りも保田駅までバスで送っていただいた。

今年、最初の登山は、みなさまの協力のおかげで、無事楽しむことができました。今年も、よろしく願いいたします。

湯の丸高原(1月24日～25日)

参加者 会員(障害者5名、健常者20名)

1月24日

東京は曇り空だったが、高速バスが西上州の山にさしかかる頃には、晴れ間が広がってきた。さらに荒々しい西上州の山々を過ぎる頃には、バスの中に差し込む日差しが暑いくらいになってきた。浅間山もよく見え、湯ノ丸山に続く稜線を見ていると、小諸駅に到着した。

ここから、車できたHさんや新幹線で来た方たちと合流し、Hさんの車とタクシーに分乗して、湯ノ丸ロッジに向かう。ロッジで昼食をいただき、つつじ平まで行くグループと、湯ノ丸山の山頂を目指すグループに分かれ、スノーシューを履いて出発する。



今年は、昨年以上に雪が少ないようだ。キャンプ場から雪原となった湿原を通り、カラマツ林の中を登って、つつじ平に到着。ここから、

コースタイム

浜金谷駅(9:50)...観月台(10:15-10:25)...地獄のぞき(11:35-12:10)...鋸山三角点(13:20-13:30)...林道(14:10-14:20)...保田駅(15:20)

湯ノ丸山の山頂を目指すグループが見えた。お互いに声をかけ合う。時間切れにならないか心配だったが、順調に登っているようだ。

私たちは鐘を鳴らしてスキー場側に下る。左手には四阿山と草津白根山が見えていた。振り返ると湯ノ丸山がごはんを盛ったような丸い山容で佇んでいる。登っていったグループが、山頂に達した様子が見えた。キャンプ場側に下り、ロッジに4時前に到着。山に行かず、ロッジでくつろいでいたTさんとYさんが迎えてくださった。

夜は、おいしい夕食をいただき、いつもの歌と踊りで更けていった。

1月25日

朝はのんびり起きて、盛りだくさんの朝食をいただいた後、雲上の丘を目指して登ることとする。一昨年は池ノ平まで行かれなかったが、今年は雪が少ないことと、リフトの終点から上の林道にトレースがあったため、順調に登り、一昨年の最終到達点に11時少し前に到着した。ここから右手に折れて登ると、雲上の丘だった。

雪の斜面は次第に急になり、樹林帯に入って左手にトラバースしたあと、尾根に上がる。尾根に立つと、八ヶ岳がよく見えた。少し登ると、富士山も見える。時間はぎりぎりだが、希望者だけで右手にあるピークに登ってみることにする。

ピークの左手を巻くトレースから外れ、ピークに直登することにする。かなり急なため、スノーシューでは難しかったが、何とか手を使っ

て、全員登ってきた。登り付いたところが雲上の丘だった。八ヶ岳、富士山、奥秩父、そして浅間山、籠ノ登山、草津白根山、四阿山、根子岳、さらに飯縄山など戸隠の山々も見えた。足下には、池ノ平の雪原も見える。今日は雲もほとんどなく、すばらしい天気だ。最高の展望を楽しんだ後、下で待つ人たちが首を長くして待っているだろうと思い、早々に下山する。



下で待つ人たちと合流し、林道を早めのペースで下る。リフトの終点に来たら、ショートスキーを楽しんでいたＹＯさんと出会った。歩いてゲレンデを下りる私たちの横を、ＹＯさんは

浅間嶺(2月1日)

参加者 会員(障害者7名、健常者13名)
会員外(健常者1名)

武蔵五日市から藤倉行きのバスに乗車し、小岩で下車する。昨日までの雨がうそのように、今日は雲一つないすばらしい天気だ。サポーターが不足気味だったが、みなさんの協力によって、余裕を持って実施することができるようになったことに感謝です。

小岩から車道を歩き、舗装されていない林道へと続いている。地図とどうも方向が違うよう

快適に滑って下りていった。途中で、もう一度会うことになった。

ロッジでおいしい昼食を腹一杯いただきくつろいでいると、14時にお願いしたタクシーが早めに到着した。ロッジの方にご挨拶をして、タクシーやHさんの車に分乗して小諸駅に向かう。途中、畑しかない斜面からは、すばらしい展望が見られた。右手には北アルプスも見えていた。雲も少しかかっている山の名前までは分からないが、鹿島槍方面ではないかと思われた。

高速バスの中からは、真っ青な空の下に、水蒸気を吹き出す浅間山がくっきりと見えた。すばらしい天気にも恵まれたことと、最高の仲間感謝です。

コースタイム

1/24 地蔵峠(14:05)...つつじ平(15:05-15:10)
...地蔵峠(15:50)
1/25 地蔵峠(9:10)...雲上の丘(11:15-11:30)...
地蔵峠(12:30)

に感じたが、Ｙさんが先に歩いて、確認してくださった。ただ、予定していた登山道は、地崩れのため通れないということなので、そのまま林道を登ることにする。

林道を登り、予定していた登山道との合流点を過ぎると、尾根に通じる登山道があった。さらに林道に行くこともできたが、稜線に出た方が展望がよいと思い、登山道を登ることにする。幾重にも積み重なった落ち葉が、かさこそと心地よい音を立ててくれる。

広いところで休憩し、少し登ると休憩所への分岐があった。ここもそのまま登り、尾根に向かう。この道は、歩くところが窪んでいて、少々歩きにくい。尾根に出ると、そこは眩しい陽光に満ちあふれていた。木の間から富士山も見える。



広く気持ちの良い登山道を歩いて、浅間嶺展望台に到着。南側には富士山や丹沢の山が見え、北側には大岳山や御前山が間近に見える。先客が10人ほどいたが、私たちもここでお昼とする。いつもながらの楽しい会話が弾んでいる。

看板の前で集合写真を撮り、休憩所に向かう。ここからも大岳山や御前山が立派に見えた。ここで、トイレを済ませ、尾根の北側を巻きながら続く登山道を歩く。登山道には積雪は全くなし。やはり異常な気候なのだと思う。

コースタイムどおりの時間で人里(へんぼり)峠を過ぎ、一度休憩して歩いていくと、すぐに一本杉に到着した。ここでも休まず、藤倉への分岐やサル石を過ぎたところで、もう一度休憩をとる。時折、南側の展望があり、今日歩いてきたところがよく見えた。三頭山の見えるところもあった。

塔ノ岳(2月11日)

参加者 会員(障害者4名、健常者11名)

今日は標高差1,100mを上り下りする体力的に非常に厳しいコースだ。体調を崩してキャンセルになった方がいたが、それでも15人の参加で、ちょうど良い体力確認になりそうだ。

大倉のバス停で全員集合し、車道を登りはじめる。天気は曇りで、山頂方面ほど雲が厚くな



休憩したところから少し行くと、数馬分岐だった。ここも順調に下っていく。車道を横切り、さらに登山道を下ると、もう一度車道に出た。この道は、かなり急で、膝の弱い人にはきつい下りだったのではないだろうか？

橋を渡って、バスどおりに出る。浅間尾根登山口のバス停で解散とし、真っ直ぐ帰る人と数馬の湯に入る人に別れる。真っ直ぐ帰る人は、予定よりも1本早く帰ることができた。数馬の湯には18人で行ったが、ゆっくり風呂に入り、喉を潤して、当初から予定のバスに乗車して、暗い夜道を武蔵五日市に向かった。

コースタイム

小岩(10:20)...浅間嶺展望台(12:05-13:00)...人里峠(13:20)...数馬分岐(14:30)...浅間尾根登山口バス停(15:10)

っている。終わりかけのロウバイの花などを楽しみながら、登山道に入っていく。この尾根には、各所に番号が振ってあって、緊急時に連絡する時は、その番号を通報するようになっている。登りはじめは0番だったが、最後は40番台のはずだが、誰も確認していなかった。

休憩所に屋根があるが、店は閉まっている観音茶屋を過ぎ、大倉高原山の家への分岐を見送って、トラバース気味に尾根に出る。尾根にはベンチがあったが、そのまま進み、すぐ先の見晴茶屋で休憩する。まだ新しい茶屋は、中に入

ってみたくなるような立派な小屋だった。木々の間から、相模湾が見えていた。

ここから急な道が続く。小さなピークを越え、さらに登ると、駒止茶屋があり、ここで休憩して、堀山の家は、そのまま通過する。時折、日も差す天気になり、暑くて汗をかく人も増えてきた。

堀山の家からさらに階段の急登が続く。展望が良くなってくると、戸沢に下りる分岐を通過する。右手に高く見えていた三ノ塔が下になり、その左手に大山が見えてくると花立山荘に到着した。寝不足のためかMさんが少し疲れて遅れたが、ここまで順調に登ってきた。すばらしい展望を楽しみながら昼食にする。



ここまでで引き返すというTさんとOさんと別れ、13人で山頂を目指す。少し登ると、ちらちらと白いものが舞い始めた。極めて細かい粒だが雪が舞うようになってきた。

尾根の痩せた金冷やし付近を登り、鍋割山稜への分岐を過ぎて、さらに階段を登っていくと、山頂に飛び出した。

残念ながら展望はなし。それでも、山頂標識の前で記念写真を撮影する。標識の隣には、いつ頃できたのだろうか石祠が立っている。尊仏山荘も健在だ。風もあり、寒いので、早々に下山にかかる。

硫黄岳(2月21日～22日)(浅間山噴火のため、黒斑山を変更)

参加者 会員(健常者9名)

花立山荘で少し休憩をし、登ってきた道を順調に下る。しかし、標高差 1,100mの下りは、とにかく長い。膝の弱い人には、非常に厳しいコースだ。見晴茶屋に着いた時、Mさんの膝がかなりガクガクだとのこと。少しだけ装備を分担し、前に来てもらって一緒に下る。心配するほどではなく順調に下り、大倉高原山の家を経由して下る。



駒止小屋を通過する頃、雨がぱらついてきたが、雨具を着るほどのこともなく、すぐに止んでくれた。大倉に着いたら、先に下っていたTさんとOさんが、待っていてくれた。計画通りのバスに乗り込んで、渋沢に向かう。今回、登った人は、途中で引き返した人も含めて、標高差 1,000m以下のCクラスなら楽に登れ、それ以上のDクラスも、ほとんどの方がこなせそうでした。今度来る時は、すばらしい天気になることを願って、渋沢で解散した。

コースタイム

大倉(8:50) ... 見晴茶屋(9:40-9:50) ... 堀山の家(11:00) ... 花立山荘(12:00-12:35) ... 塔ノ岳(13:10-13:25) ... 花立山荘(14:00-14:10) ... 堀山の家(14:55-15:10) ... 見晴茶屋(16:00-16:10) ... 大倉(16:55)

2月21日

今日は、朝からとても良い天気だ。この天気も明日の後半くらいまでは持ちそうだ。

松原湖駅で電車を降り、ジャンボタクシーで稲子湯手前の本沢温泉に向かう林道のところまで入る。雪上車は、先に別なパーティーをゲートまで運び、引き返してくれるので、こちらは行けるところまで歩いて行くことにする。

30分ほど歩いたところでお昼にする。昼食後歩き始めたらずくに、雪上車の音がしたので、広いところで待つことにする。雪上車は私たちがお昼を食べたところでUターンしてきた。前の座席に二人が乗り、後は、後の荷台のようなところに乗る。走りはじめると、いきなりガタンと揺れ、激しい震動が連続する。しっかりと掴まないと、ズルズルと後にずれてくる。キャタピラで動く雪上車なので当たり前のことなのだが、非常に厳しい乗り心地を経験した。

ゲートで雪上車を降り、雪道を歩き始める。尾根の右側をトラバース気味に進み、途中から左側を歩くことになる。木々の間から、目指す硫黄岳が見えたり、左手後には奥秩父方面が見えていた。つららが無数にあるところでは、岩に添ってできあがった氷のモニュメントが美しかった。

みどり池から来る登山道を右手に見ると、本沢温泉はすぐそこだ。受付を済ませて、広間のこたつで温まる。本沢温泉の中は、暖房が少ないこともあり寒い。小屋の中の温度計で - 4 だった。

夜、外にでると、満天の星空だったが、ルーリン彗星は山の陰に隠れて見えなかったようだ。

夕食の後、温泉にも入らず、同室の方たちと山の歌を歌って、早々に床についた。

2月22日

朝食は6時30分からなので、事前に全て準備を整えておく。外にでると、気温は - 9 だ

った。冬山としてはそれほど寒くない。

朝食後、すぐに出たかったが、人数も多く、少し時間がかかって、予定よりも45分遅れの7時15分に出発する。

露天風呂への道を分けたところから、トレースは今日、私たちの前に出発したワカンの人のものがあるだけになった。私とHさん、Fさんで交替して先頭に行くことにする。朝日が差し込み、汗ばみながら登る。トレースは地図とは違い、途中で尾根に出る。そこからトラバースして夏沢峠に出ていた。たぶん、地図の道がかなり古いのだろう。

夏沢峠でアイゼンを付け、私は、風が強うそうに感じたので、Kさんとロープで繋ぎあう。やはり、登るにつれて、強風が吹き荒れてきた。Hさんを先頭にどんどん登っているが、私は、Kさんの状況を見ていて引き返した方が良いと思い始めた。雪も完全なアイスバーンで、ピッケルのピックも刺さりにくいほどの氷だった。



しかし、強風のため、声は全く届かない。ただ、前に行く7人は、女性陣もみんな力強く登っているようだ。私は、Kさんのサポートに専念する。黒々とした岩を右手に回り込むと、一旦は風も弱まったように感じた。しかし、山頂の近くでは、再び激しい強風が襲ってきた。

一步一步がやっとのKさんを他の方が風よけになってくださったり、腕を組んで登ってくださったりして、念願の山頂に到着した。すでに雲が広がりはじめていたが、横岳、赤岳、阿

弥陀岳のいつもの展望が広がる。強風と帰りの時間が気になるため、少し腹に入れて、下山にかかる。

山頂からは、みんな左側に行く夏道を行ったが、ここは厳しかったようだ。私はKさんと右側を下り、尾根に出たところでみなさんを待つことになった。夏道は、雪がたくさん付き、かなり厳しいルートとなっていた。トラバースよりも上に上がってもらった方が安全と思い、途中から上に上がって、尾根に出てもらった。厳しかったが、ここも全員クリアし、あとは快適な尾根の下りだ。風もおさまり、大展望を楽しみながら下る。



過去に雪崩事故のあった赤岩ノ頭からの下りは、急な雪の斜面となる。しかし、実際には見た目ほど厳しくはない。ここも順調に下り、樹林帯に入ったところで、小休止とする。

樹林帯の中では、時折シリセードを交えながら快適に下っていく。赤岳鉱泉に着くと、アイスクライミング用の氷のモニュメントを、スタ

ッフのみなさんだろうか、手入れをしているようだった。赤岳鉱泉の外の温度計は、0 だった。

ここから順調に下れば、最終バスに間に合うので、早々に下山することにする。途中、何度も凍り付いたところがあったが、全員無事に林道に出た。しかし、この林道がくせ者で、しっかりと凍り付いている。それでも、美濃戸に着くと、先に行ってもらったHさんたちが、コーヒーを沸かしてくださっていた。おいしいコーヒーに体が温まり、先を急ぐ。ここから先も何カ所か凍っていたが、氷が溶けて地肌が出ているところもあり、温暖化の影響が心配になった。

美濃戸口に着き、八ヶ岳山荘のお風呂に入るが、男女交互でないと入れないということなので、タクシーで帰ることにして、女性も入ることができた。

とにかく、厳しい風と凍り付いた登山道だったが、全員無事に登頂し、下山できてホッとしました。みなさまのご協力に感謝です。

コースタイム

- 2/21 本沢温泉への分岐(11:30)...1,520m付近 (12:00-12:20 昼食後雪上車に乗車) ...ゲート(13:15)...本沢温泉(15:20)
- 2/22 本沢温泉(7:15)...夏沢峠(9:10-9:25)...硫黄岳 (11:20-11:40) ... 赤岳 鉱泉 (13:05-13:20)...美濃戸(14:50-15:00)...美濃戸口(15:40)

立教大学生のレポートから

高鈴山に登って

今回初めて山仲間アルプに参加させていただきました。事前に山仲間アルプの話は授業でも聞き、実際に視覚障害の方も一緒に登山をすることができるということは知ってはいましたが、私は視覚障害の方が登山をするというこ

とはとても困難で危険なことのように思っていました。しかし実際に参加してみて驚かされました。自分が思っていたよりも視覚障害の方の足取りは軽く、私自身も躊躇してしまう岩場まで同じように無事に登ることができたので

す。私は山仲間アルプを知る以前は視覚障害の方が登山をするということ自体考えもしなかったし、視覚障害の方は登山ができないものだと決めつけていたことに気付かされ、自分がいかに無知であったか恥ずかしく思いました。私は今回の登山を経験して“自分の視点ではなく、相手の立場にたって必要なサポートを考えサポートする”ということの重要性と難しさを学びました。いくらサポートをしようと思ってもそれが相手の立場にたっていないければまったく意味がないのです。私はサポートをする際に「あと少し右に足を出して下さい。」とか「前に段差があります。」などという言葉がたくさん使いました。しかしこれはまったく視覚障害の方の立場にたっていないサポートだということに気付かされました。“あと少し”とは私から見た“あと少し”であり、視覚障害の方にとってはそれが10センチ先のことなのか50センチ先のことなのか1メートル先のことなのか判断することができないのです。“段差”という言葉も同じです。視覚障害の方は“段差”という言葉だけでは下りの段差なのか上りの段差なのか判断できないし、高さ何センチの段差かも判断できません。このように相手の立場に立たないで自分の視点だけでサポートするということがいかに危険で意味のないものかということを考えさせられました。

私は登山中に何回か目を閉じて歩いてみました。ただでさえ山道はゴツゴツしていて不安定なので、目を閉じて歩くのは非常に不安だし怖かったです。だから一緒に登山している視覚障害の方が本当にすごいと感じました。しかしそれと同時に目を閉じていると鳥や虫の声、風に揺れる木々のざわめき、肌に触れる風の感触を一層強く感じることに気付きました。たとえば目が不自由でも匂いや音、風をより敏感に感じることができます。障害が有ろうと無かるうと自然の中ではすべての人が自然を感じ楽しむことができ、そこには差別など存在せず自然はすべての人を同じように受け入れてくれているように感じました。普段の都心での生活では障害の有無が線引きされているように思いますが、自然にはそれらを取っ払う力があると思いました。私は今回の山仲間アルプに参加した経験は自分にとって非常に大切で大きいものになったと思います。自分の視点ではなく相手の立場に立ってサポートすることの大切さ、自然のもつ力や美しさなど学ぶことができました。そしてちょっとしたサポートや理解により、障害をもつ人とともにない人が共に楽しむ場がより多く生まれる可能性を感じました。今回山仲間アルプに参加させていただいたことをありがたく思います。

A . H

半月山に行って

私は、11月8日(土)に日光にある半月山に行ってきました。その前日は雨が降っていった天気の方が心配だったのですが、どうにか回復してくれて当日は曇りでした。けれど気温が低く、東武線の浅草駅に集合した時点で冬のように感じる寒さで、登山したらより体感温度が下がるのではないかと心配でした。また、この日は立教生が私しかおらず、最初はとても不安を感じていました。浅草駅から東武日光駅まで

電車で2時間、そこで合流した他のアルプのメンバーと共にバスに乗り、30分かけて中善寺温泉停留所に到着しました。そこから少しのところ登山道の入り口があり、そこで円になり自己紹介と準備体操をしました。そこから班分けをして、私は2班の方になりました。そして弱視の人のサポートを一番手にやらせていただくことになったのですが、その人は前回に参加した高鈴山で、下山するときにサポートした

男性でした。今回の半月山も奥さんと一緒に参加されたようで、前回知り合っている分サポートにあたっての緊張が少しほぐれたように感じました。リュックにロープをつけてもらい山に登り始めたのですが、懸念したとおり真冬のように寒く、歩いていないと冷たい風に体温を奪われてしまうといった感じでした。前日にAさんからメールをもらっていましたが、日光の最高気温が5だと教えられたのにも関わらず私は手袋を忘れていました。そのことを話したらメンバーの男性から予備の手袋を貸してもらえたのですが、もしこの日に手袋を着けなかったら、手が震えっぱなしで登山に支障が出たのではないかと今でも思います。このように山に登り始めてからすぐのところでも湖を見られました。山に囲まれた広い湖で、その景色を見ていると既に秋を通り越して冬の季節になってしまったのではないかと思うくらい、何だか寂しさを感じてしまいました。このときはまだ東京では紅葉は始まっていないけれど、完全ではなかったのが季節感のギャップに驚きました。そこから15分ほどして休憩となり、ここでサポート役を交代しました。それから、とにかく歩いて小さい野原のような場所で昼食を食べました。昼食を終えてまた歩き始めてから知ったのですが、実はその山は半月山では

なくて半月山から手前2つの山でした。間違えたわけではなく元からそのつもりだったようで、山を登って下りてを2回繰り返してやっと本命の半月山に登るときは、あまり持っていない体力を奪われた気分でした。そして半月山に入るとき、この日2回目のサポートをすることになりました。けれど入ってからほどなくして、障害物や切れているところが増えて少し危険だったのでAさんと交代しました。それからやっと山頂に着いて記念撮影をしたのですが、その頃には日が傾きかけていました。急いで下山し始めたのですが、辺りが薄暗くなってもまだ山の中で、山を降りおわったときには既に月が出ていました。しかも半月でした。予定より2時間も遅れたようで、山のそばにあったお食事処で夕食を食べました。お酒も出てきて(私は飲みませんでした。)みんなとても楽しそうで、山と一緒に登ったという一体感があって気分も居心地もとても良かったです。しかも夕食はAさんに奢っていただきました。それから停留所に戻り、駅で解散しました。立教生一人だけという状況は不安でしたが、終わってみるととても楽しいものでした。課題で2回登山に参加しましたが、どちらも楽しんで経験できたので自分にとって良いものだったと思います。いつか時間ができたらまた登山をしてみたいです。

A . K

「桜山」山登りレポート

今回初めて山仲間アルプの人たちと一緒に山登りをしました。障害者の方と一緒に山登りをするのはもちろん初めてでしたが、とても楽しく、とても良い経験をすることができました。

本庄駅で皆集合し、途中まではバスとタクシーで行きました。山頂までは少し大回りして30分程度。あっさり登り終わってしまって少し物足りなさがありました。今回の山登りでは、弱視の方が一人いて、私たち立教生5人が交代

でサポートしました。私はもっとサポートは大変なのかと思っていましたが、すごく勘がいい方で、「階段登ります」程度の簡単な指示だけであとはすいすい歩けました。ペースもゆっくりだと思っていましたが、話しながらさくさく登って行くことができました。引っ張る力も全然感じず、リュックに手を置いているだけという感じで、全く負担を感じませんでした。この方は本当にすごいと思いました。私だったらす

ごく引っ張ってしまうだろうし、普通のペースでは歩けないと思います。ましてや平坦な道でも怖いのに、山道ときたら大変なものだと思います。運動のためにも定期的に山登りをしているそうですが、山仲間アルプのような団体があって本当によかったと思うのと同時に、本当に素晴らしい活動を行っている団体だと改めて思いました。さすがに一人で登ることはできないし、やはり障害者が山登りをするのは健常者に比べるとどうしても難しい部分があると思います。しかし私たち健常者が少しサポートをするだけで一緒に登ることができて、私たちサポートする側も楽しめるので、すごく良いと思いました。簡単なことのようにですが、なかなかこのような活動を行っている団体はないと思います。しかし障害があっても山登りやその他にもやりたいことがあるだろうし、私たちが手助けをすることでできることならば、喜んでほしいと思うし、そうするべきだと思います。障害者だからできないということはないのだと実感しました。

山頂に着いて写真を撮り、昼食をとり、少し休んでから下りました。帰りはタクシーで歩いてきたところも下ろうということで、いかにも山道らしい道を下って行きました。登りが楽だった分下りは一層きつく感じましたが、これで

こそ山登りという感じが味わえました。途中何度か滑ってしまって、これでサポートをしていたら大変だなと思いました。「下りの方がサポートするのは大変だよ」と参加者の方が言っていたように、本当に下りは登りよりも注意深く、慎重にサポートしなければならないと感じました。

歩きながらAさんや他の参加者の方が、色々な植物の説明をしてくれました。普段は見られないような植物がたくさんあり、勉強になりました。桜山は冬桜が有名ということで、冬桜と紅葉がすごく綺麗でとても良い時期に来られたと思います。天気が良くなかったのが残念でしたが、それでも満足できるような景色で、都会では見られない景色とおいしい空気に癒されました。

参加者の皆さんとても元気があって、話をしながらわいわい山登りをしていて、観光として山登りに来たという感じですごく楽しめました。その中でも学ぶことがたくさんあって、大変有意義なものでした。山登りは中学振りでしたが、山登りの良さを実感し、それを障害者の方とも共有できるというのは素晴らしいことだと思いました。今回、この山登りに参加して良かったです。

R . B

山仲間アルプの活動に参加させていただいて

私は、12月7日に行われた、石老山の清掃登山に参加させていただきました。今回は二回目の参加ということで、前回様々なことを教えていただいていたので、障害者の方々の補助の仕方などは前回に比べてスムーズにできたと思います。

また、今回も前回同様に視覚の障害を持つ方々のエネルギーとコミュニケーション能力に驚かされました。今回の石老山の登山は、前回の高鈴山と比べると、上りの道は比較的登り

やすい道が続いていたのですが、下りの道が格段に難しいものでした。前回も、山仲間アルプの会員の方々に「下りの方が、補助をするのはたいへんだよ。」と言われていたのですが、今回の下りの道でそのことを実感させられました。下りの道は、自分もブレーキをかけながら一步一步下っていくため、どうしても視覚障害者の方との距離が近くなってしまい、段差などを降りるときにも迷惑をかけてしまいました。

また、私が滑ってしまった時には、後ろにい

る視覚障害者の方まで滑ってしまうので大きな責任を感じました。実は、私は何度か滑ってしまったのですが、視覚障害者の方は笑顔で励ましてくれました。その心の広さも見習わなければならないと感じました。

今回の石老山の登山には、山仲間アルプの会員さん、私たち立教大学の大学生だけではなく、小学五年生の女の子二人も参加されていました。子供登山教室に参加している子たちということで、常に先頭を歩いていました。疲れた様子も見せず、とても元気がよかったですとても感心しました。この女の子たちには体力や登山のスキルにも感心させられたのですが、そのほかにも感心させられることが多くありました。はじめに新宿駅で会った時には、さすがに緊張していたのか話しかけてはこなかったのですが、電車によってこちらから挨拶してからは、女の子たちから積極的に話しかけてくるようになりました。私は、この女の子たちと同じ年齢のときには年上の人の中に入ったり、積極的に話しかけたりは出来なかったのですが、この

子たちのコミュニケーション能力に感心させられました。

このコミュニケーション能力の高さは、この山仲間アルプの方々の影響が強いと思います。Aさんを始め、会員の皆様、そして視覚障害者の方々が積極的に話しかけて来てくださるので、気負いすることもなくコミュニケーションをとれるのでコミュニケーション能力が高くなったのだと思います。

また、この女の子たちのような年齢から障害を持つ方々と触れ合っていくことはとても良いことだと思います。身近に障害をもつ方々がいる環境が当たり前だと思える人が増えてくれば、バリアフリーの社会の構築にも役だってくると思います。私自身の勝手な希望としては、この女の子たちがこれからも山仲間アルプの活動と触れ合い続け、さまざまなことを感じながら福祉に興味を持ってもらい、将来は、障害を持つ人が生きやすい社会をつくってくれたらいいなあ、と思いました。そして、そこで私と再開できたらうれしいです。 R・K

夢の単独行への第一歩(Kさんの個人山行報告)

朝から天気は良いが、ウェザーニューズの予報通り、空を見上げれば黄砂で青空に、筋が入ったように見える。

高麗駅についてトイレをすませ、しっかり体操をする。12月に右足首外側の靭帯を切ってしまったので、ここは慎重に、そして、靴紐をしっかりしめる。

今日は、生まれて初めての単独登山である。手の骨折なら、我慢して下りてくれば良いが、足が折れては人の助けを借りようになってしまうので、気を引き締める。

駅には年配のハイキング集団が、体操や、準備をしていた。彼らに、先に行ってもらって、後からゆっくり行こうと思ったが、なかなか出発しないので、こちらが先に行くことにした。

皆さん、駅から登山道までは省略しますが、私の場合は駅から一歩歩いたら、登山は、始まっています。途中大通りで、山の格好した人たちが、道に迷っていたようで、引き返してきて、今度は私の後ろを歩いてくる。

今までは、何も考えず、前を歩く人の、足元を見て歩いてきましたが、後ろから来られると言うのは、すごいプレッシャーを感じます。道を間違えたら、かっこ悪いですから～

いよいよ駐車場のところから、登山口に入ります。後続部隊は、付いて来ません。おそらく、手前の階段を上ったのでしょう。今回は単独登山の技術向上を、試す目的で来てるので、人の後をくっついて歩かない事を心がけました。

道なりに行き、鳥井を潜り、分岐を左に男坂を登ります。わずかに下って、小さな沢の音を聞きながら木の橋を渡り、いよいよここから岩登りです。

ストックも使い、軽やかに登って行く。すると、後ろから、一人登ってくる。このプレッシャーに、負けまいと、ペースを上げる。わざと直登して、引き離そうとしても、付いてくる。抜かれるのが悔しいので、ドンドンペースを上げる。気持ちが先立って、早く登ろうとすると、険しいルートを選んでしまう。

途中少し立ち止まって、三点支持を思い出し、進むと目指す鳥居が見えてきて、ここには誰の姿も見えず、トップで登って来た喜びに浸り、丸太の椅子に腰掛け水を飲む。ここは、巾着田の見える、展望の良い場所だが、黄砂で富士山は見えない。

しばしの休憩の後、山頂を目指す。神社を右にまいて、このあたりがいつも、やや分かり難いが、滑りそうな岩を超えて、山頂への分岐を見つけ、無事に山頂へ到達しました。

9時10分に登り初めて、9時43分に山頂到達です。一番だと思ってたら、10人ほどがいました。山頂は、北側の展望が開けているが、黄砂と私の目では、良く見えないので、下りる事にする。

下りは苦手なので、特に慎重に滑らないよう、神社の屋根を目印に下る。特に下りは、私の場合、全神経を集中して下りていますので、今回は一人ですが、話をしながら下りるなんて言う芸当は、ほとんど出来ません。会山行でも、下りは無口です。

そして巾着田の見える展望の良い、鳥居のとこまで下りて休憩。10時なので、まだお昼には早いので、水を飲む。ここは、南側がひらけているので、空気が澄んでいて天気が良ければ右側に、もり塩をしたような富士山が、見えるはずだ。またまた富士山を確認するが見えない。するとパラグライダーが2機、飛行しているのでしばらく見学することにした。今度チャレンジしてみたいものです。

そして、女坂を下ります。登り優先を、思い出し道を譲る。ここは、ちょっと分かり難いところがありますが、道なりに行けば問題無く、男坂、女坂分岐の鳥居を確認して無事下山しました。

ペースを上げすぎたので、しばしの疲労を感じたので「今日は、もう帰ろうか」と、駅まで戻り、用をすませ、顔や手を洗って、スッキリして、時間を見たらまだ10時42分。帰るのはもったいないし、お昼を食べるために、もう一度同じコースを登る事にしました。

幼稚園の集団が、駅を出発して10分、こちらも歩を進めることにする。今度は、直前の反省から、ペースを抑えて男坂を、ゆっくりと登る。後ろから、親子二人連れ、父と娘の声、微笑ましい。私のトレースを、付いてくるようで、なんだか彼らを先導しているような気持ちになってきた。

朝登った時は、意地を張って飛ばしてしまっただが、今度は、後続の親子のために、登りやすいルートを選ぶよう、心がけてみた。朝より大分楽に巾着田の見える鳥居に着いた。プチ休憩して、山頂へ。巾着田の見える鳥居に下りたら、早速昼食11時27分。富士山は、やは

り見えないが、おにぎりとお汁で一人乾杯、満足感に浸った。

何人かの登山者とすれ違い、挨拶を交わす余裕も出てきた。そして女坂を下り、無事予定通り下山した。もともと2回登るよう、計画してたのである。

駅へ向かう途中、農家の人の販売所があったが、小心者の私は素通りしてきました。こういう所は、女性人は立ち止まって見るでしょうね、なんて考えると、あらためて一人で着た事を実感します。

こんなに真剣に山に登れて、充実感、達成感でいっぱいです。いつも楽しく、笑いながら登山出来るのは、サポートして下さる方や会員の皆さんのおかげだと改めて実感した一日でした。

弱視の単独登山には、反対の向きもあると思いますが、今度の山行が無事成功したことで、日和田山のこのコースに関しては、自信ができました。そして、地図が見えなくても、地形を憶えて山に登ることも、事によっては可能だと、分かりました。先週連れて行っていただいたAさん、ありがとうございました。

いつの日か、リーダーをやってみたいなどと、また新たな夢が膨らむ一日でした。

M . K

その他事業報告

臨時総会(1月17日)

参加者 出席 14名

書面委任 48名

社員(正会員)総数(88名)の1/3

以上の出席があり、総会が成立

2009年度事業計画について審議が行われ、一部修正の上、承認された。詳細は、総会議事録を参照ください。

千葉県ボランティアズカフェ第1回写真展(2月17日～21日)

千葉県ボランティアズカフェの第1回写真展で、活動内容を写真で伝えやすい山仲間アルバムが選ばれ、2月17日から21日まで、写真

展が開催された。

19日には、理事長の網干が会場に行き、訪問された方に説明を行った。

各種連絡事項

定期総会のご案内

下記の通り定期総会を予定していますので、ぜひ出席をお願いいたします。

性あり)

3. 議題: 2008年度事業報告及び決算報告、2009年度事業計画について

1. 日時: 5月9日(土) 13時～15時

2. 場所: 八千代市内の公民館等(変更の可能

詳細は、追ってご連絡いたします。

スポーツ保険料の改定

平成21年度から、(財)スポーツ安全協会が運営しているスポーツ保険が改訂されます。年齢によって保険料と保険内容が変更となりましたので、ご注意をお願いいたします。

年齢など	掛金 (円)	障害保険金額(単位:円)				賠償責任保険てん補限度 額 及び 共済見舞金
		死亡	後遺障 害	入院	通院	
中学生以下	600	2,000万	3,000万	4,000	1,500	身体・財物賠償合算1事 故5億円、ただし、身体 賠償は1人1億円。見舞 金は180万円。
高校生以上	1,600	2,000万	3,000万	4,000	1,500	
65歳以上	800	600万	900万	1,800	1,000	

「千葉市民活動フェア in きぼーる」に出展します

3月14日と15日に、千葉市民活動センター主催の「千葉市民活動フェア in きぼーる」が、千葉市中央区中央4-5-1のQiballで開催されます。このフェアに、山仲間アルプも活動

紹介パネルの展示などで出展します。前日の準備や当日の訪問者対応など、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

山仲間アルプの活動紹介映写会を開催します

一歩くん基金の助成事業として、下記の通り山仲間アルプの活動紹介映写会を開催します。当日の会場づくりや受付、進行など、ご協力を

よろしくお願いいたします。また、多くの方に参加していただけますよう、お知り合いの方などにも、ぜひお声かけください。

1. 日時 3月29日(日) 14時~15時30分
2. 場所 八千代市総合生涯学習プラザ 多目的ホール(定員200名)
3. 参加費 無料
4. 内容 「共に楽しむ登山」などのビデオ上映、活動説明、山の自然と高山植物などのスライドショー、何でも質問コーナー

山仲間アルプ写真展開催(練馬区ビーンズアクトにて)

パルシステムの運営するセカンドリーグ支援室の方から、その方の住む近隣の多くの方に、山仲間アルプの活動を知って欲しいとのお話をいただき、5月14日から31日まで、西武池袋線練馬駅北口から徒歩5分のところにある「ビーンズアクト」で写真展を開催していただけることになりました。

この写真展は、支援して下さる方の個人的

なご好意で、会場費や写真の展示などを行ってくださることになっていますが、ぜひ多くの方に会場に出かけていただき、お手伝いや訪れた方への説明、対応などをお願いいたします。

支援して下さる方のお気持ちをありがたく受け止め、これまで以上に活動を通じて、社会貢献に繋がっていきたいと思います。

今後の計画

いよいよ来年度から7年目となりますが、多くの登山やハイキングを計画していますので、

ぜひご参加ください。

編集後記

・理事長のつづやき

山仲間アルプが産声を上げてからもうじき6年が経過しますが、この間、力のある仲間だけで楽しんだり、制限を設けるのではなく、できるかぎり誰もが、共に楽しむことを大切にしてきました。先日、過去に退会した方から「改めて山仲間アルプの活動に感服した」というメールをいただきました。

特定の障害者や子どもだけが対象という団体は多いのですが、制限を設けず、それぞれを個性と捉えて、広く受け入れるところは少ないように思います。子どもたちも、障害を持つ人も、体力のある人も、ない人も、制限を設けないことで、お互いに相手からさまざまなことを学び合い、影響し合うことができます。

・次回発行予定は、6月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

しかし、地域社会の中でも、なかなか自分と立場の違う人を受け入れることが困難な状況にあります。それができているのは、やはり自然が持つ包容力と、会員みんなが豊かな包容力を持っているからだと思います。

昨年、会員外で参加したある方が、途中から疲れて遅れ、予定のバスに乗れなかったのですが、誰もクレームをいうことなく、遅れたおかげでゆっくりお風呂に入ることができて、かえって良かったと、参加者みんなが言ってくださいました。その方は、以前所属していた会なら次回から誘われなくなると言っていました。

何年たっても、今の山仲間アルプの雰囲気を大事にしたいですね。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

